2021年度第3学期終業式校長挨拶（2022．3．17）

皆さんこんにちは。
２０２１年度最後の終業式となりました。

この１年間は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスに翻弄された一年になりました。年度当初のアルファ株の第３波から始まり、デルタ株の第４波、オミクロン株の第５波、そして今後も予断を許しませんが、山あり谷あり、そうした中で皆さんよく頑張ったと私は思います。

対面授業も何とか継続することができました。学校行事も、記念祭も体育祭も強歩大会も、コロナ前と同様とはいきませんが、色々工夫して実施し、ある意味ではコロナ前よりも進化した面もあると思います。

前にもお話しましたが、武蔵が創立する直前の１９１８年から流行したスペイン風邪も、流行の波を繰り返しながら収束まで３年あまりを要しました。ウイルスも相次ぐ変異株の発生など、しぶといとは思いますが、集団免疫を獲得するまでは、そのくらいの時間がかかるのかもしれません。来年度も、今少し、山や谷を繰り返す我慢の時が来ると思いますが、引き続き「感染防止対策」を徹底しながら、一緒に乗り越えていきたいと思います。

さて、終業式に際し、私のほうからは、現在、人類が向き合っている「自由」の問題について、お話をしたいと思います。ウクライナの問題です。先日、中１の授業でも、生徒から「ウクライナの問題をどう捉えればよいのか」という質問を受けました。その答えにもなります。

２月２４日、ロシア軍が隣国ウクライナに侵攻しました。ウクライナのゼレンスキー大統領は「ウクライナの自由のために徹底的に戦う」と述べました。悲惨な映像が日々流れてきます。武蔵生諸君も心を痛めていると思います。私にとっても衝撃的なニュースでした。

何故衝撃を受けたか。

その一つ目の理由は、ヨーロッパ内で主権国家に侵入することが、今の時代であるのかという衝撃です。

世界史を見ると、ヨーロッパ内で他国に侵攻するということはよくありました。むしろ世界史はその連続でした。しかし、人類は第一次世界大戦、第二次世界大戦という大きな代償を経て、さらに国際連盟、国際連合という英知も結集しながら、ナチスドイツのような狂気は二度と起こさないという世界を築いたはずでした。違いました。

確かに、第二次世界大戦後も、東西冷戦の中で、ソ連がハンガリーやチェコススロバキアといった東ヨーロッパ諸国に侵入することがありましたし、ヨーロッパ以外の世界に目を転じれば、これまでも、ベトナム、アフガニスタン、イラク、シリアなどで、内戦と絡みつつも他国に侵入する軍事行動がありましたが、１９９１年にソ連が解体したのちに、ヨーロッパ内でこのようなかたちで主権国家への侵攻が起きるとは、時代が逆戻りするような錯覚を覚えました。

二つ目の衝撃の理由は、核戦争というものが、現実味を帯びてきた恐怖感です。核兵器は広島・長崎での悲劇を踏まえ、東西冷戦時代に一発触発の緊張はあったとはいえ、その後８０年間一度も使われていません。しかし、今回は原発も占拠されています。そうした核兵器あるいは生物化学兵器が愚かにも、本当に使用されるかもしれないという恐怖感です。

２０世紀は、人類が二度にわたる世界大戦という大きな代償を経て、自由の価値や平和の尊さ、そして多様性の大切さを学んできた時代だと思っていましたが、それが大きく崩れそうになっている衝撃を私は感じています。

そうした中にあって、何故、ロシアはウクライナに侵攻したのか？

この問題は、政治、経済、歴史、文化さらにリーダーの個人的資質など、様々な視点から論じられています。ぜひ武蔵生諸君には、よく考えてみてほしいと思います。

同時に、私は、もう少し大きな視点、つまり人類が獲得しようとしている「自由」という視点から考えてみたいと思います。

今回の出来事は、私は人類が大事にしてきた「自由」という概念、さらに「多様性」という概念が実現していく一方で、その過程で発生した矛盾や問題点が、まだ解決し得ていないことの現れではないかと考えています。一方、武蔵にはこれまで「自由とは何か」を問い続けてきた長い文化があると思います。だからこそ、この問題を「自分事」として考えてほしい。

私の考えを述べます。人類が「自由」という価値を実現しようとしたのは、歴史的には近代市民革命が大きいと思います。例えば、１８世紀末、１７８９年から始まったフランス革命。そこでは絶対的に君臨していたルイ王朝を打破するために、今もフランス国旗として残っている三色旗が掲げられました。

その意味は、自由、平等、博愛あるいは友愛。この三つです。

私はこれらの価値は近代社会が生み出した素晴らしい価値だと思います。ただし、これはその後の人類史の中で、必ずしも世界中で問題なく実現されたわけではなく、様々な矛盾や課題を残していくことになりました。

例えば、三色旗に掲げられた「自由」と「平等」の問題。

資本主義が発展していく中で、市民は経済活動の自由、金儲けの自由を手に入れます。ただ、自由に競争して良いという一方で、その結果は必ずしも平等ではない。資本家は富を増やしていくけれども、労働者にはその富が分配されない。自由の結果、不平等になるという矛盾に社会は直面しました。

その後、この矛盾を解決するため、平等という価値を重視した社会主義思想が生まれ、そのもとにソ連や中国などの社会主義国家が生まれます。しかし、そのソ連国内では、逆に自由が抑圧される問題も大きくなり、１９８９年のベルリンの壁崩壊を機に、ソ連をはじめ東ヨーロッパの社会主義国家は消滅していきました。

一方で、この自由と平等の矛盾の問題、つまり自由でありながらどう平等を実現し、両者のバランスをとるのかと言う問題は、近年、世界中で「格差」の問題が指摘されるように、今もなお解決し得ていない人類の課題だと私は思います。

それからもう一つ大きな矛盾。自由と民族独立・自治の問題があります。

例えばイギリスもフランスも、国内では市民革命により自由を実現した一方で、アジアやアフリカを植民地支配し、現地の人々の自由は認めませんでした。自由に他国に侵略する一方で、現地の人は支配される。自由はない。帝国主義です。

この帝国主義は、第二次世界大戦後、アジア・アフリカでの民族独立運動につながり、２０世紀後半は、自由を掲げた民族自決の考え方に基づき次々と国家としての独立を果たしていく時代になります。

自分たちの国は、自由に、自分たちで作り独立する。いわば世界の多様性を認める。しかし、なかなか独立がうまくいかない場合がある。政治的にも経済的にも影響力を及ぼそうとする、あるいは頼らざるをえない大国主義・覇権主義の問題、あるいは多様性と統合の問題といえるかもしれませんが、これもまた、今なお解決していない人類の大きな課題だと思います。

いずれも、自由という理念を推し進める一方で、その結果として、人類がなお解決しえていない自由のもたらす課題です。

自由は難しい。

日本国憲法第 12 条には、この憲法が国民に保障する自由及び権利は、「国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」とあります。つまり、自由を実現するためには、耐えることのない努力、不断の努力をせよということです。

この言葉は、日本のみならず、世界中が問い続けなければならないことであるし、同時に、この武蔵でも、武蔵だからこそ問い続けなければならないことだと思います。

世界は多様で異質、そして複雑です。それに比べれば、武蔵は極めて狭い同質的な空間だと思います。でも、そこであっても自由の抱える矛盾や問題は変わらない。望ましい自由とは何か。自由はどうあるべきか、自由の抱える問題をどう解決すべきかという本質的な問題について、考え続ける必要があると思っています。ウクライナは遠い世界ではありません。この武蔵においても自由の問題を徹底的に考えることが、現在人類に課せられている課題への解決案につながるし、皆さんが今できる世界への貢献だと私は思うのです。

そして一刻も早く、ウクライナをはじめ世界中に平和が訪れることを願ってやみません。